

第18期 全曹青基幹事業のあらまし

第18期全曹青は、基幹事業として「電話相談事業」に取り組みます。

全曹青が「大衆教化の接点を求めて」と標榜し発足してから34年。

その間、従来のお寺を支えてきた「寺檀制度」の要素である地縁や血縁、地域社会の繋がりは徐々に寸断され、苦悩を抱える個人がより孤立を深めて、行き場所(生き場所)を見失いつつあります。

第18期全曹青はそのような現代における大衆・世間との接点に「電話相談」を施設すること提案致します。

今期のスローガンの実践として、受話口を通して聞こえるいのちの声に耳を澄まし、孤立を感じている人をひとりでも減らして、より具体的な世間苦と向き合うことを目指して、多くの会員諸師に当該事業に参画して頂けるように、新たに「基幹事業委員会」を設置し、その環境整備に取り組んで参ります。

「電話相談員」養成研修の実施

当該事業の中核です。

従来の電話相談の成果を参考にしながらも、より青年僧らしい資性を発揮できる独自の「電話相談員養成プログラム」を作成し、これに基づいた研修会を、出来るだけ多くの地区で開催することを目指します。(6頁参照)

社会資源の情報収集

事業が社会と有機的に結びつくことを目指します。

相談者の悩みに対して、より専門的な助言ができるような、全国各地の相談窓口や支援団体をリストアップし、セーティーネットを構築することを計画しています。

基幹事業委員会による電話相談窓口の開設

当該事業には直接的な先例がありません。

そこで、事業の執行機関である基幹事業委員会が実際に「電話相談窓口」を開設・運営をすることで、独自に電話相談に関するノウハウを集積し、事業全体に成果を反映させます。(7頁参照)

Column

なぜ、電話相談なのか?



電話相談と聞いて、なぜ電話相談なの？と首をかしげる方も多いた一人でした。

今どき「電話」による相談というのは古いのでは？

相手の顔が見えないので、信頼関係が築けないのでは？

沈黙が続いたらどうしよう？？？など、数々の疑問が浮かんできました。

ところが、電話相談について勉強する中で、色々な利点に気づいたのです。

- いくつか挙げてみます。
- 電話相談だと、相談するために移動する必要がありません。

- 対面の相談だと、相談者は、相談する場所に移動してくる手間があります。
- 電話相談は、匿名性が高いので、相談者が安心して相談できます。

- 電話はいつでも気軽にかけられるので、緊急の時でも相談することが出来ます。
- 通話料以外にお金がかからない、といった利点もあります。

- 最近は携帯電話が普及しているため、どんな場所からでもつながることが出来ます。

- これは私が一番「なるほど」と思ったのですが、電話は、ほとんどの方が持っている、たいへん身近な道具です。



「手軽で、相談者が一番頼れるツール」といえるでしょう。以上を一言でいうなら、電話相談は「困っている人にとって、間口が広くて敷居が低い」。そんな方法です。

これだけ挙げると、電話相談がいかに優れたものかお分かりいただけます。そして、ここが一番大切だと思うのですが、相手が見えない電話相談でも信頼関係を築くことは出来ます。それには、とにかく相手の声を聴くこと。相手の言いたいことを十分に把握することです。顔が見えない分、この点はとても重要になります。

すぐに話をまとめたり、自分の意見を言ってしまうようになるのを我慢して、「一生懸命「聴く」のです。これは、私にとって、ふだん人と接する上でも教訓になりました。